

テニス日本リーグ第 30 回を迎えて



公益財団法人 日本テニス協会

名誉会長 盛田 正明

テニス日本リーグが第 30 回を迎えられたとのこと、誠におめでとうございます。

私が日本テニス協会の会長でありました時代に第 20 回を迎えた事を思い出すと、もう 10 年も経ってしまったか、と云う感慨で一杯であります。

あの当時「テニス日本リーグはどうあるべきか」と云う議論を盛んにした事が思い出されます。「企業のスポーツはアマチュアであるべきだ。だからアマチュアだけのチームで戦うべきだ」とか「いや、プロ選手を加える事によって日本での最高レベルのチーム戦とするべきだ」とか、毎回、日本リーグの最終日の朝に各チーム企業の代表の方にお集まり頂いて真剣な議論をした事が思い出されます。

また、あの当時は、日本経済の好景気のパブルがはじけた後遺症が、長々と続いていた頃の事ですから、何処の企業の方々も、ご自身の会社の経営自体で大変な苦しみと努力をされていた時代で、そう云う中であって企業スポーツとしてテニスチームを維持し続けて行かれる事には大変なご努力と痛みを感じて居られた時代でもありました。

私自身も長い企業人生活を送って来ましたので、その皆様の痛みは手に取るように判るなかで「企業内スポーツの持つ効果」をお願いし続けなければなりませんでした。大変に辛い立場であった事も思い出されます。

此の事を考えますと、30 年も此の大会が続けて来られた事は、本当に企業の中でテニスを楽しむ方達のご努力と熱意の賜物としか言いようがありません。

また、企業のトップの方々の企業スポーツの重要性をご認識頂き、厳しい中でもサポートを続けて頂いた結果であると思っております。感謝の他ありません。

最近、錦織圭選手の活躍もあって、日本に再びテニスのブームがやってきました。長年の私どもの夢でありました地上波でのテレビ放送が NHK を始めとして放映される様になって、これ迄一般の方々は全くご存じなかった様なグラندスラム以外の世界のメジャーなテニス大会までが放映されて、テニスをなさらない方までがテニスの事を口にされる時代になって参りました。

この機会に企業テニスの大事さも、一人でも多くの方々に認識をして頂いて、テニス日本リーグが更に大きく発展をされる事を期待致しております。

テニス日本リーグの益々の発展を願う



公益財団法人 日本テニス協会
実業団委員会

前委員長 仲島 彰信

〈はじめに〉

テニス日本リーグが日本の実業団チームによる“国内最高峰の団体戦”として定着し第30回を迎えることを大変喜ばしく思い感慨ひとしおです。特にバブル経済の崩壊による長期不況やリーマンショックによる経済変動が与えた企業状況によって、日本リーグを牽引していたチームの撤退と選手確保の厳しさを乗り越えて今日の盛況を見る時、日本リーグの発展に寄与されたスタッフやチーム関係者、協賛・後援されてきた関係者様に敬意を表します。

日本リーグの草創には大きな夢と先輩たちの大変な努力があったとお聞きしています。テニス団体戦には国体や都市対抗、大学王座はありますが実業団としての全国大会を作り、日本のテニス水準向上を目指し選手に大きな目標を持たせ、他のスポーツ種目でもあるような企業対抗戦の面白さを引き出したいことへの情熱が形を作っていたと思います。

〈実業団委員会に参加して〉

私は勤務していた荏原製作所が日本リーグに参戦していたこともあり、第14回大会から23回大会まで中盤の運営に関与しました。その間共に議論し課題を乗り越える為に努力しあった各委員の皆さんやチーム代表の方々との思い出は今では懐かしい貴重なものです。またテニス日本リーグの運営には事務局を外部に委託していますが、この事務局の下支えこそいろいろな試練を乗り越えて大会を円滑に運営し30年の実績を積み上げてきた要だと思っています。

私が携わった期間での課題は“最高峰のテニス団体戦”に相応しい試合内容のレベルアップと大会をいかに盛り上げるかでした。

〈マスコミからは運動会レベルと揶揄もされていました〉

そこで実行したのはプロフェッショナル選手の参加制限撤廃及び外国籍選手の参加解禁（2ポイントまで）でした。この決定には多くの議論をし時間も費やしました。そして何よりアマチュア社員選手で構成している堅実なチームが、最後には同意して下さり参加を継続し大会を盛り上げてくださったことはありがたいことでした。（後にベストアマチュアチーム賞が出来たことは良かったです）

次に会場を固定化しました。以前は日本リーグの宣伝を兼ねて、全国分散志向がありました。あるチームの監督さんから助言を受け、1st・2ndステージを東西会場として横浜市と三木市で交互に行い、決勝トーナメントは東京体育館をメッカとすることに考え方を整理し今日に至っています。

〈今後に向けて〉

テニス人口は最盛期に比べて低迷を脱していませんが、錦織選手の活躍や東京オリンピックに向けた取り組みで明るい材料は増えています。そういう条件を生かしつつ、このテニス日本リーグがより一層発展をしていくことを切に願っています。